

平成29年第3回理事会議事録

- 日 時：平成29年8月17日（木） 11：30～17：00
- 会 場：大阪大学微生物病研究所・第一会議室（本館二階）
- 出席者：堀口安彦 理事長、
大西 真、川端重忠、川原一芳、桑野剛一、古西清司、白井睦訓、関水と久、
高井伸二、中川一路、西川禎一、林 哲也、松下 治、山口博之 各理事
大原直也、三宅眞実 両監事
藤井重元 第90回総会準備委員長
- 欠席者：辻 孝雄、八木淳二 各理事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

特になし

II. 確認事項

前回理事会、評議員会、会務総会の議事録について：メールで回覧済みだが修正等あれば事務局早瀬氏に連絡するというので、いずれの議事録も確定した。

III. 総会報告

1) 第90回総会終了報告（藤井 第90回総会準備委員長）：

赤池第90回総会長が不在のため、代わりに藤井第90回総会準備委員長より、資料に基づき以下の報告があった。

収入の部の内訳は、参加費 8,948,500 円(参加者数 929 名)、ミキサー参加費(ポスター討論時の軽食)581,000 円(参加者数 369 名)、プログラム集販売費 206,700 円(68 冊)、展示会出展料 831,600 円、共催費(ランチョンセミナー)2,592,000 円、広告掲載料 378,000 円(7 社)、補助金としては、日本細菌学会補助金 3,000,000 円、日本細菌学会理事会演者招聘費 2,400,000 円、寄付金としては、日本製薬団体連合会 3,500,000 円、その他寄付金 720,000 円、ICD 講習会費 287,150 円、合計 23,444,953 円(利息 3 円を加算)。収入は例年に比べ 200 万円程度少なくなっている。その理由は、日本製薬団体連合からの寄付金が 50 万円減額した。例年新学術領域の共催寄付金は、総会収入に加味されていたが、今年度から別会計になったため。これら二つを合わせると、例年並みの収入である。支出の内訳は、会議準備費 3,979,152 円、会議当日費 14,490,559 円、招聘費 3,070,340 円、優秀発表賞と副賞 51,000 円、業務委託費 715,389 円、事後処理費 138,513 円、本部返納金 1,000,000 円。合計 23,444,953 円。収入から支出を差し引いた額は 0 円。学会内容としては、特別講演 4 セッション、教育講演 2 セッション、国際シンポジウム 2 セッション、シンポジウム 29 セッション、選抜ワークショップ 55 演題、ランチョンセミナー 3 セッション、ポスター 402 演題。

2) 第91回総会準備状況報告（林 第91回総会長）：

林第91回総会長より資料に基づき以下の報告があった。来年の学術総会は、福岡国際会議場にて、3/27(火曜日)から3/29(木曜日)にかけてほぼ例年通りのスケジュールで実施する予定である。総会前日3/26(月曜日)に開催する理事会と評議員会は、九州大学医学部にて開催する予定である。シンポジウムとワークショップは、混在させず、同じ時間帯に実施できるような構成とした。またトゥーマッチ(過密)にならないようにした(シンポジウムは同時に3本、ワークショップは同時に5本まで)。第1会場は一番大きな会場だが、総会と浅川賞受賞講演を除き使用しないこととした。2日目と3日目の朝にモーニングレクチャー(トピックスとテクニカルレクチャー)を実施することにした。そのため全体的にその日の終了時間が遅くなっている。3日目の午後は、魅力的な論文の書き方セミナー(仮)を設けた(ワイリーに講演を依頼中で引き受けてくれたら実施)。ポスターは貼りっぱなしで行う予定である。日韓シンポジウムは、韓国側代表者との連絡で、日本側の事情を説明した上で、前日開催

や、日韓を独立して開催するのは無理だということを伝え、先方の了承を得た。日韓シンポジウムは、シンポジウムの1セッション、若手のワークショップ2セッションをあてる。韓国側には、演者と座長の名前を挙げて欲しいと依頼をしている最中である。日韓シンポ若手ワークショップの日本側講演者は、近々の黒屋奨学賞受賞者をあてる。座長はできれば理事の中から選出したい。日韓シンポの内容は、日韓の共同研究のシーズになるようなトピックスを絞りたい。抗酸菌関係でどうかと、韓国側に打診をしている。韓国側3名、日本側2名の演者で実施予定である。オーガナイザーは、大原監事をお願いしたい。ランチョンセミナーは実施する予定だが、今のところ、協賛企業は見つかっていない。シンポジウムは2時間半、ワークショップは2時間で実施する。これまでは、企画調整委員会で企画案を出し、足りない分を一般から公募して埋めるような形を取っていたが、双方(企画調整委員会と総会長)から案を出し、話し合いを行った。ポスターを応募する際の区分となる研究領域は、時代に合っていないものもあったので(10年前に決めたものをそのまま使用しなくても良い)、西川企画調整委員長とも相談し変更した。ベストではないかもしれないが、その都度変更していくのが良いと思う。公募のあった企画の採否は、最終的に林第91回総会長が選択することになった。獣医学会、化学療法・感染症学会・臨床微生物学会、日本微生物生態学会(内容未定交渉中)との共催を予定している。若手コロッセウム企画は、若手コロッセウム運営委員会に一任。会費をいくりにするのか、ミキサー代金をどのように徴収するのか(参加者全員からミキサー代金を徴収するなど)、また日韓シンポの予算として、どの程度を念頭におけば良いのか、この場で意見を聞きたい、とのことであった。

- 3) **第92回総会準備状況報告(山口 第92回総会長)**：山口第92回総会長より資料に基づき以下の説明があった。会期は2019年3月27日(水)から3月29日(金)(*3/26火曜日は設営)まだ学会の内容については何も決まっていない。その一方、会場の選定をAE企画に依頼し行った。札幌 JR 駅周囲の利便性が良いので、駅周囲の施設の会場費概算を算出してもらった。その結果、ポスターの設備も整った、かつ会場が広い札幌コンベンションセンターで実施することとした。ポスターは討議時間があるが、例年貼りっぱなしであり、ポスター会場が広いので、その中でオーラルを入れることができないか検討したい(一本演題の5分程度のプレゼンを終日)。また、もし可能であれば、学会の前後で細菌学会主催という形で市民公開講座のようなものを開催できればと考えている。

堀口理事長：基本的には、総会長にアイデアを出してもらい、トライアンドエラーで実施してもらうことに問題はない。

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

①**総務・渉外担当報告(川端理事)**：川端理事より、資料に基づき以下の報告があった。平成29年7月現在で、会員数は2,352名(名誉会員39名、正会員1,831名、学生会員521名、賛助会員37社)。平成28年6月30日の会員数(2,401名)と比べると、50名程度減少している。特に正会員が、1,892名から1,831名と大きく減少している。会員の減少に歯止めがかからない状態が続いている。経年的な会員数の推移で見ても、2009年以降、じわじわと減少傾向は続いている。近未来的には、もう少し下がるであろうと予想している。本年度4月から日本感染症学会の理事長が、岩田敏氏から館田一博氏になった(挨拶文面の紹介)。

②**広報・HP作成担当報告(中川理事)**：中川理事より資料に基づき以下の説明があった。第90回日本細菌学会総会直後に会員アンケートを実施した。会員の参加状況だが、以前から言われていたことだが初日の午前中と最終日の午後、会員の参加が少ないことが浮き彫りになった。特に最終日の午後は、多くの会員が帰ってしまったようである。最終日の午後のセッションについては、何らかの配慮が必要である。選抜ワークショップへの参加者が多く、評判がかなり良かった。選抜ワークショップは各日に配置するのが良いかもしれない。総会回答数は227件で、参加者は1,000名程度なので、5分の1程度の会員が回答していることから、そんなに偏ったものにはなっていないと考えられる。参加費については、現状のままが良いといった意見が60%程度を占めたが、12,000円程度までなら値上げしても良いと言った意見が多くあった(15,000円でも良いという意見と合わせると約30%に達する)。例えば日韓シンポがあるので、少し参加費を上げることは受け入れられるのではないかと思う。開催場所については、ある程度固定化(例えば5箇所程度)しても良いのではないかといった意見が多数あった。将来的には、分子生物学会のように、開催地を固定化しても良いかもしれない。学会としては、

開催費用を圧縮でき、また参加者の旅費負担の軽減につながる可能性がある。寄付金や用語集の有料化に関しては、”寄付金についてはこれ以上の負担を考えていない”、といった意見が大多数であった。用語集の有料化については、”どちらでもない”、といった意見が4分の1を占めた。現状ではこのような形で徴収するのは難しいかもしれない。開催時期については、約半数程度(55.9%)は、現状の時期(3月末)で良いとのことだが、年度末の開催は年度末で忙しく(卒業式や入学式の準備など)、科研費が使いにくい、などといった意見が多数あった。時期を変えたとした場合、10月開催を希望する会員が多かった(9.5%)。これらのことを念頭に、開催日については、検討していくのが望ましいかと思う。引き続きHPに関する報告があった。現在、リンクや階層が複雑化しているので整理を進めている。年内には目処をつけたいと思う。

③選挙関連担当報告(関水理事)： 関水理事から学会賞/名誉会員選考委員選挙、また、評議員選挙(電子選挙)について資料に基づき以下の報告があった。学会事務局会議室にて、八木委員長と古西理事ともに開票作業を行った。内容についての詳細は早瀬氏より以下のように報告があった。電子化された評議員選挙についてだが、前回の評議員選挙に比べ、投票率がわずかではあるが上がった(前回：1488名中646名投票率43.4%、今回：1413名中625名投票率44.2%)。電子化に伴う投票率の顕著な増減は認められなかった。一方、費用の節約、開票を含む各種作業の手間が軽減され、電子化のメリットは大きかったと感じた。また選挙方法が変更になったことで、死票(例えば支部選出で当選した評議員の全国区での得票は死票となる)がなくなった。堀口理事長からも、死票がなくなったことと、当選者の最低得票数が上がったことで公平な選挙になった、とのコメントがあった。大原監事より以下の追加発言があった。今回は電子選挙で実施したことにより、投票期間終了後に管理者画面から、適切に選挙が実施されたことを確認した。

2) 財務部会報告

- ① **会費・会計担当報告(関水理事)：** 関水理事より、資料に基づき以下の報告があった。執行率が少なくなっている項目が多いが、これから執行する予定のものが多く含まれるため、そのようになっている。早瀬氏より以下の追加説明があった。総会準備費(執行率0%)や選挙関係費(執行率12%)は、これから支出されるので、執行率が低くなっている。
- ② **賛助会員担当報告(西川理事)：** 西川理事より、資料に基づき以下の説明があった。賛助会員は、執行部の努力により、ほぼ倍増したが、ここにきて少し減少してきている(H28年は42社だったのが、H29年は37社へ減少)。賛助会員を増やす努力を引き続きしていく必要がある。

3) 学術部会

- ① **学術支援・評価担当報告(林理事)：** 特になし。
- ② **学術企画分野**
 - 1. **シンポジウム等企画担当報告(西川理事)：** 西川理事より以下の説明があった。仙台の総会では、総会長が提案されて、足りないところ全て企画調整委員会が委託された流れになっていたが、来年の総会は、林総会長から説明があったように、総会長からの提案以外の枠については、企画の提案と一般公募企画を同じテーブルに載せ、総会事務局で最終的に調整することになった。選抜ワークショップは新しい試みとして実施し比較的好評だったが、ポスター登録者全員を対象とすべき(ただしこの場合選考するのが容易ではない)、といった意見もあり、形式については検討の余地があるかと思う。
 - 2. **バイオセーフティー担当報告(大西理事)：** 大西理事より資料に基づき以下の説明があった。経産省から、細菌学会のBSLレベルのリストを転載したいとの依頼があった。経産省は現在、包括確認制度(案)(*病原性・毒性がない等の条件に満たしている安全性の高い範囲の供与核酸であれば、まとめて申請できるような制度)の策定を行っていて、その際の判断基準になる。バイオセーフティー委員会委員の了承(問題はない)が得られているので、その旨返答する。
 - 3. **ICD制度協議会等担当報告(桑野理事)：** 桑野理事より以下の報告があった。ICD協議会(6月22日)があった。総会でのICD講習会の開催に際し、その申請時期は、これまでは前々年の10月までであったが、今後は前年の1月31日までに行なえば良いことになった。

③ 学術交流分野

1. **日本微生物学連盟担当報告（川原理事）**：川原理事より資料に基づき以下の報告があった。前回の議事録(第23回日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS分科会・病原体学分科会合同会議第18回日本微生物学連盟理事会議事録(案))を添付したので後で内容を確認してほしい。平成29年4月21日に第19回日本微生物学連盟理事会(日本学術会議 総合微生物科学分科会・IUMS分科会・病原体学分科会合同会議)が開催された。以下、川原理事議事内容メモ抜粋：IUMSに関して、7月16日にシンガポールで総会があり、役員が交代する予定。日本からは中川理事が候補者となっている。これまでに実施したフォーラムの説明と、今年の夏休みごろを予定している「微生物：変わり者たちの素顔」(企画担当：日本微生物生態学会、日本ウイルス学会)の説明があった。昨年新しく加盟した「酵母遺伝学フォーラム」が2018年度に酵母合同シンポジウムの中でフォーラムを行う予定がある。細菌学会もフォーラム開催に向け準備すべきであり、次期理事会への引き継ぎ事項とすべきである。高校生・大学生向けの比較的安価な書籍を出版できないか、との提案があった。シリーズ化して、各分野の先生に執筆してもらうことも考えている。「酵母遺伝学フォーラム」及び「糸状菌分子生物学研究会」の紹介として、それぞれの役員の先生から、学会の活動内容についてスライドを使った説明があった。次回の加盟学会紹介は「日本医真菌学会」と「応用微生物学研究協議会」が行う予定。この件も、次期理事会への引き継ぎ事項となる。日本微生物学連盟理事長名での関係大臣宛ての要請書最終版(平成28年9月30日付け)(資料)の報告と、わが国の対応状況についての説明があった。わが国の微生物の持出しに関する法律は制定せずに、ガイドラインを作り名古屋議定書を批准する、という現状が説明された。
2. **日本学術会議担当報告（川原理事）**：上記1に含まれる。
3. **日本医学会連合担当報告（辻理事）**：特になし。
4. **予防接種推進専門協議会担当報告（大西理事）**：特になし。

4) 教育部会報告

①**次世代教育・人材育成担当報告（松下理事）**：松下理事より以下の報告があった。7月2-4日にかけて、第11回細菌学若手コロッセウムが、筑波大学(代表世話人：野村教授)で開催された。参加者51名、口頭発表17題、ポスターが41題と盛会であった。まだ確定しているわけではないが、細菌学会から財政支援を30万円行っているが、十分な予算確保ができており、返納される可能性がある。次回の理事会で、正式な返答をする予定である。細菌学若手コロッセウムに関するコロッセウム側の現状認識は(以下HP抜粋)、1. 細菌学の礎を築く学術集会である。若手研究者が切磋琢磨する場を提供することが目的である。細菌、アーキア、真菌を研究している若手研究者が合宿形式で集い、各自のデータを口頭発表する場である。率直な疑問に意見をぶつけ合うことで、新たな研究チャンネルネットワークを構築し、研究者としての成長を促す。2. いずれの学会からも独立した学術集会である。3. 次世代教育・人材育成の一環として、日本細菌学会より支援されている。さらに、支援の成果を日本細菌学会にフィードバックするため、代表世話人等から同学会総会において、成果を発表するための冠シンポジウム等の企画を提案している。4. 今回日本細菌学会非会員のコロッセウム参加者は、2018年3月に開催される、同学会総会への参加費が免除される。4については林総会長の了解済み。3についても企画を提案してもらう予定である。2についてだが、コロッセウムは学術集会なので、事務局や規約が一切存在しないが、当面作らないことが決まっている。よって日本細菌学会からの支援は、学術集会への支援であって、組織に対するものではない。予算案審議の際に意見を聞きたいが、次年度も支援してもらいたい。次年度は代表世話人として、大原監事の協力も得て岡山で開催できればと考えている。初等・中等教育については、今年も千葉大学の野田教授にご担当いただいている。詳細は次回の理事会で行いたい。

②**教育資源発掘・保存担当（松下理事）**：松下理事より以下の報告があった。100部追加として細菌学ムービーを作成した。次年度以降も頒布を続ける予定である。審議事項で、無料寄贈の取り決めについて諮りたい。

5) 出版部会報告

- ①**学会誌担当報告（大西理事）**：大西理事より資料に基づき以下の報告があった。日本細菌学雑誌が今後も

PubMed 検索にかかるために、Portico にデータを保存(安定的なバックアップ)することになっていたが、作業が完了した。PubMed 掲載誌として認められた。バックナンバーのアップロードを中西印刷に依頼し、見積もりを取ってもらった結果、101,520 円となった。

② **MI 誌担当報告 (川端理事)**：川端理事より資料に基づき以下の報告があった。Wiley と MI 誌のオープンアクセス料について交渉を進めてきたが、会員(日本細菌学会、日本ウイルス学会、日本生体防御学会)の場合、20%割引となり、US\$2,160 となることになった(2017年)。アクセプトされると会員割引コード: MAIXXX が発行される。受理した author に対してもう一度オープンアクセスについて、料金がディスカウンドとされることも含め問い合わせができるように、サイト修正を依頼している最中である。早ければ9月から実施される予定である。オープンアクセス料金については、Wiley と継続して話し合うべきであり、次期理事会への引き継ぎ事項としたい。6年の任期が来るので、今年度いっぱい associate editor は半数が交代となる。次回の理事会では、チーフ editor も含めメンバーを報告する予定である。

③ **用語集担当報告 (川原理事)**：八木理事に代わり川原理事より資料に基づき以下の報告があった。南山堂から、用語集 Web 版データの整理を開始した旨、お知らせがあった。2017年9月 Web 用データ納品(南山堂 → 中西印刷様)、2017年10月 Web ページ制作(中西印刷様：制作期間 約2週間)、検証・確認(南山堂・用語委員会)、2017年12月完成(※公開時期はご指示に従います)の予定である。便覧の菌株名リストは、一部確認事項(どの菌とどの菌が同じか)があり、日程がずれる可能性がある。

6) 国際交流部会報告

① **IUMS 等担当報告 (古西理事)**：古西理事より資料に基づき以下の報告があった。2017.7/17-7/21 までシンガポールで開催された。第15回国際微生物応用学会、第15回国際真菌学真核微生物学会、第17回国際ウイルス学会との同時開催であった。この会の特徴だが、基調講演(キーノート)とブリージングセッションは合同だが、その後ワークショップ等は別れて行う。口頭発表は400-500程度(細菌学は170程度)。ポスターは670演題。1,500名以上の参加。60カ国以上。いろいろなことが遅れに遅れ、例えば参加当日までアブストラクトが見られない状況だった(日本でオンライン確認ができなかった)。次回(2020.10.11-16)は韓国(Daejeon)で開催される。中川理事が役員になることが決まった(桑野理事より追加発言)。

② **日韓微生物等担当報告 (桑野理事)**：特になし。

7) 社会交流部会

① **利益相反担当報告 (辻 理事)**：特になし。

② **倫理担当報告 (白井理事)**：特になし。

8) **その他**：特になし。

V. 審議事項

1) **法人化について**：堀口理事長から以下の説明があった。これまで法人化について、ほぼ3年間議論してきた。これを次期理事会にどのように引き継ぐか、といった議論をしたい。引き続き川端理事よりこれまでの経緯も含め資料に基づき以下の説明があった。平成30年度の予算は決して余裕のあるものではない。一方、法人化すると、新たに支出が多くなることも事実である。/以下、前回の議事録より抜粋：税理士関連費用(月次決算管理費と法人専用の決算書作成費)で年間42万円前後。司法書士関連費として初回登記(定款作成を含む)と役員変更(2年毎)に伴う登記で、初年度は25万円前後(役員変更が生じるとその都度、登記作業が必要になる)。税関連は実際にどの程度の数字になるのかはわからない。一方、日本細菌学会と同規模(会員数)の、とある法人学会は毎年約10万円前後の雑収入であるが、それに対する課税額は約8万円。その他として、法人事務委託費として648,000円(54,000円×12ヵ月による)。以上により、上記範囲に関しては、「税関連」を除き、最低限初年度は1,318,000円前後の諸費用が必要となる。/それ以外にも、2年に一度選挙を実施する必要があり(現行では3年に1度)、その費用が追加が必要となる。電子化しているがそれに伴い選挙費用が嵩む。細菌学会の予算収入がおおよそ2,000万円だとすると、年間150万程度の固定支出額は、財政をかなり圧迫すると考えられる。同じ規模の学会(会員数が2,000名程度ただし年間予算が4,000万円)でも法人化している場合はあるが、その学会は年間予算額が倍と、細菌学会とはかなり状況が異なる。正会員がこれから更に減っていくとすると、年間支出を可能な限り抑えられるよう

に努力すべきである。例えば50人減れば50万円減る。今の余剰金と基金は1,500万円あるが、もし会員数増が見込めないとすると、余剰金と基金は10年で枯渇(破綻)してしまう。これらのことを考えると、次の理事会には資料を渡し、現状を把握十分に理解してもらった上で時間をかけて審議するのか、あるいは辞めるのかを決めてもらえれば良いのではと思っている。堀口理事長より以下の発言があった。法人化のワーキンググループ(川端理事、三宅監事、大原監事)が大変な努力を払って、かなり時間をかけて審議をしてきた懸案事項であり、今回このような形でまとまった。ポイントは、どのように次期理事会に引き継ぐのか、といった点である。次期理事会としては、おそらく結論だけ投げられても、どのようにすべきか判断に困ることが推測されるため、ある程度の方向性をこの理事会で出す必要がある。審議した結果、検討の余地は残すが、現状での法人化は無理である、という結論に至った。ただし現理事会で法人化を審議し始めたので、12月末までに今理事会の考え方(審議内容も含め)を何らかの形で(HP等)まとめ、示すことにする。またこれら内容は第4回理事会への引き継ぎ事項とする。

- 2) **平成30年度予算について:** 堀口理事長より資料に基づき以下の説明があった。第3回理事会で来年度予算案を検討するのは時期尚早だが、引き継ぎ事項、学会費、総会費、日韓シンポの費用をどうするのかを決めなくてはならないので、このタイミングになった。まず予算案の中でも、総会準備費、シンポジウム関連費、日韓シンポジウム関係費について審議したい。評議員会でも指摘があったが、ここ2年間総会準備費には手をつけていないので、見直しについても検討する必要がある。予算案では、総会準備費300万円、シンポジウム関係費240万円、日韓シンポジウム300万円となっている。そこで総会費とシンポジウム関係費を15%減額して、それぞれ255万円と204万円とし、日韓シンポジウム関連費を50%減額して150万円としたい。以前の理事会でも話をしたが、このあたりの予算は毎年減額して行って、総会開催に必要な最低限予算を探ったほうがよい。審議の結果、総会準備費、シンポジウム関係費、日韓シンポジウム費の減額に関して、林理事(次期総会長)と山口理事(次々期総会長)は了承し、認められた。引き続き、支部支出費120万円について審議したい。昨年は各支部から企画を募って、その内容に沿って、理事会で配分額を決めた。余裕のない支部があることは承知している。上げるという選択肢は難しい。審議の結果、昨年同様の予算(120万円)とし、支部の活動内容に応じて再配分することになった。また旅費(170万円)については、会議が必要な企画調整委員会のために計上額の増額について検討することになった。これら予算修正案は、次回の理事会で再度審議することになった。
- 3) **社会教育活動に関するアンケート調査の実施について:** 松下理事より資料に基づき以下の説明があった。初等・中等教育における細菌学啓発活動については、これまで野田教授にお願いしているが、いつまでもお願いし続けることはできない。今後は、細菌学会として、無理のない形で他の会員へと移行させていくためにも、このようなアウトバウンド活動だけではなくインバウンド活動も含め、多くの学会会員の活動に対してインセンティブ(賞や助成金)を与えてはどうかと考えている。それを踏まえ、支部会の際にアンケート調査を依頼できればと考えている。アンケート項目は以下になっている。/1. 所属支部をお教え下さい。[北海道、東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州] 2. 専門領域をお教え下さい。[医学、歯学、薬学、農学、獣医学、理工学] 3. 細菌学啓発活動を最近行いましたか? (2014年夏-2017年夏) [回] アウトバウンド活動(出張講義など) [回] インバウンド活動(高大連携事業、ひらめきときめきサイエンス、他)(その他) 4. 細菌学啓発活動に対する日本細菌学会の支援についてのお考えをお教え下さい。[良い、悪い]「日本細菌学会後援」とする。[良い、悪い]「学会ロゴ」の使用を許可する。[良い、悪い] 若干の活動費を支援する。 5. 細菌学啓発活動への参加会員の評価(特に若手会員のプロモーション支援) [良い、悪い] 5回以上の活動参加で「日本細菌学会次世代教育賞」授与(例) 6. ご意見/ 審議の結果、アンケートの実施について、了承された。
- 4) **学会発行物の無料寄贈の取り決めについて:** 早瀬氏より以下の説明があった。細菌学映像素材集DVD(顕微鏡写真静止画と動画)と病原体等安全取り扱い管理指針について、定期的に寄贈してもらえないかと、といった問い合わせがある。その都度理事長と相談し対応はしているが、部数も多くもないため、このまま

寄贈し続けると問題が生じる可能性もあり、上限を決めた方が良いかもしれない。このような経緯で理事会の審議事項となった。審議した結果、譲渡する際は上限を設け、最大1人2部までとすることが決まった。

5) **クラミジア属名変更に関する要望 および BSL 表の修正について:** 堀口理事長より資料に基づき以下の説明があった。クラミジア科の細菌に関しては、現在、生物多様性条約などを始めとする病原体に関する諸規則における BSL 分類、およびその分類を採用している国内法等（感染症法）においてクラミジア属及びクラミドフィラ属の二属に分類されている。一方、すでに 2013 年にはクラミジア属一属に統一したとされている。にもかかわらず、国内法等においてはクラミジア属及びクラミドフィラ属の二属が記載されたままとなっている。そのため、学術的な取り扱いと行政的な取り扱いで齟齬が生じ、混乱を招いている現状にあり、日本細菌学会として本件について議論の上、科学的な根拠に基づき BSL 分類を修正し、厚生労働省等の関係省庁に対して、クラミジア属一属とするよう提言してほしいといった要望である。審議の結果、学会の窓口は大西理事になってもらうことになった。また提案者には BSL 分類と属名統一を切り離れた提案書を再度まとめてもらい、属名統一が確認できたところで細菌学会として、省庁に提案することになった。

6) **次期執行部への引き継ぎ事項について:** 堀口理事長から資料に基づき引き継ぎ事項のとりまとめの役割分担について以下のように指示があった。川端理事は、庶務と MI 誌について。中川理事は、広報・HP について。八木理事は、選挙関連、用語集について(用語集については川原理事と協力して実施)。高井理事と山口理事は、議事録について。関水理事は、予算、会費会計について。西川理事は、賛助会員、シンポジウム等企画担当について。林理事は、学術支援(総会時の評価)と将来構想について。大西理事は、バイオセーフティー、予防接種推進、学会誌について。桑野理事は、ICD 協議会、日韓日微生物について。川原理事は、学術交流(日本微生物学連盟と日本学術会議を合わせて)について。辻理事は、日本医学会について。松下理事は、教育部会(次世代教育・教育資源発掘*若コロを含む)について。古西理事は、IUMS について。将来構想は、堀口理事長がまとめる。白井理事と辻理事は、利益相反・倫理について。次回の理事会が 12 月 8 日なので、それまでに(理事会開催の 2 週間程度前までに)役割分担に従い取りまとめ、事務局早瀬氏に送付すること。改めて事務局から通知する。担当者がいない事項に関する引き継ぎ部分は、堀口理事長がまとめることになった。

7) その他

1) **内藤記念財団助成金の申請について:** 堀口理事長より資料に基づき以下の説明があった。7/13 から HP 上で推薦希望者の公募を行った結果、松本教授(新潟大学)から、第 52 回日米医学協力計画抗酸菌専門部会日米合同部会を開催するにあたり、内藤財団からの助成を希望する旨、申請があった。審議の結果、松本教授を推薦することが了承された。

2) その他

1) **BSL 分類に関して:** 川原理事より以下の説明があった。微生物資源学会では、菌株保存施設との関連が強く、菌株保存施設が菌株を分譲する際、その BSL について問い合わせがあり、分からないことがある。今のところ、細菌学会の便覧などを参考にしている。一方、年間何百種もの新種が報告されていて、それらの BSL をどうするのか、といった点が問題となっていて、そのレベルを決定するシステムができることを希望している。細菌学会のみならず微生物資源学会もそうだが(感染症学会と日本臨床微生物学会も)、そのような場合には、江崎先生が一人で、全て(レベル決定)をやっているような状況である。江崎先生に伺ったところ、江崎先生から「微生物資源学会では、IJSEM の掲載内容(新種と認められたもの)をつぶさに確認しているので、そのリストを元に、日本細菌学会、感染症学会、日本臨床微生物学会、微生物資源学会の 4 学会で集まって、新種の BSL について議論をして毎年決めていくのがよいのではないか」、との提案が出された。現在の微生物資源学会の執行部としては、そこまでは考えておらず、細菌学会が現在整理している BSL を今後も引き続き行ってもらえるのか、また一般微生物に関しては、病原性がないものが多いので全部細菌学会で精査することはできないと思うのでその辺りどのようにしたらよいか、この二つの点に関して細菌学会の意見を伺いたい、とい

ったことを考えている。細菌学会がBSL分類整理を継続するというのであれば、日本微生物連盟の方に依頼し、幾つかの学会がまとまり、国内での統一見解を出していくようなシステムを作っていくのが良いかと思う。審議の結果、川原理事から、微生物資源学会へ依頼があれば微生物連盟の加盟団体として細菌学会で取り組むので、微生物連盟にその旨提案して欲しい、と回答することになった。

VI. その他

1) Web の活用について：堀口理事長から以下の説明があった。Webサイトの活用方法について審議したい。まず用語集をライセンス制とするかどうかについて意見を聞きたい。用語集の公開時期は、ライセンス制の導入の有無を検討し、その結果を踏まえ決定することになっている。具体的には、毎年、ライセンス料として、5万円程度を目安として徴収するWeb上のシステムを作るといったことや、それに付随して細菌学会関係のスライド集も1枚幾らかで、用語集と同じシステムに載せることについて。テクニカルな部分は、後で詰めることとし、まずは是非について議論したい。審議の結果、アイデアレベルで申し継いで、現状のものは、オープンにし、Webシステムについては中川理事に一任し整理してもらうことになった。中川理事より「ようこそ細菌学の不思議な世界へ」が機能していないので、どのようにすべきか審議して欲しいと提案があった。検討した結果、作成当初の経緯とコンセプト[アップデートすることが前提で、情報提供会員には何らかの感謝状や証明書(社会貢献した証)を、細菌学会から提供者に発行することになっている(山口理事より)]も踏まえ、中川理事が検討することになった。HP全体のページ階層が複雑であり、費用が嵩む原因になっている。この件についても、中川理事が検討することになった。

2) AE企画との複数年契約について：堀口理事長より以下の説明があった。ここ数年総会はAE企画にお願いしている。複数年契約を行うことで、ディスカウントできないか問い合わせをした。複数年契約の是非について、審議したい。審議の結果、AE企画にディスカウントの内訳を提示してもらい、改めて審議することになった。

3) 今後の若手コロッセウムの取り扱いについて：まず松下理事より背景について以下の説明があった。コロッセウムは学術集会なので、事務局や規約が一切存在しない。従って、毎年必ず開催しなければならないといった規定はない。賛同者が適時集まって開催しているのが実態である。よって、来年、岡山で開催する予定だが、世話人を決めるような規定はない(言い換えると再来年の開催の目星がたっていない)。集会としてはとてもしっかりした活動となっているので、そこに支援をして、きちんとしたフィードバックを依頼するのは可能である。堀口理事長から以下の追加説明があった。教育支援費として予算を組んで、集会(会そのものではなく)に対して支援している。そこで、現在のような支援体制で良いか審議したい。若手コロッセウムをさらに有効に活用できればと考えている。審議の結果、細菌学会の評議員や執行部が参加しやすくなるような仕組み作りや、教育部会やシンポジウム企画委員が一般参加者として参加していくような取り決めを、引き継ぎ事項として審議することになった。西川理事から、面白い企画を提案する上で企画調整委員会メンバーの人選はとても大切なので、理事から適任者を推挙して欲しいといった意見がだされ、引き継ぎ事項となった。

平成29年第4回理事会について：

開催日時=2017年12月8日(金)11時30分~17時00分

※次期理事との合同理事会

VII. 閉会